

ハート・オブ・ゴールド



vol.35

2016年7月5日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail: hginfo@hofg.org

URL: <http://www.hofg.org/>



最高に楽しかった OBM 文化祭



有森代表のプロロー



カモン R で研修



チア・キムター駐日カンボジア大使と

3年間の留学を終えて

【自立・復興支援事業】

カンボジアでは、義務教育を終えただけでは働ける場所が少なく、自立が困難です。HG は日本語教室や養護施設を運営して子ども達の自立に向けての支援を続けています。親や家がない NCCC (New Child Care Center: 養護施設) の子ども達は手に職をつけなければ自立して生きていくことができないため、職業訓練が必要となります。

バン・サオピア (NCCC 出身) は、本人の強い希望と受け入れ先があったことで日本に留学。岡山学芸館外国語学校で日本語を学びながら、カモン R で美容師の研修を。翌年 4 月からは専門学校岡山ビューティモード (OBM) に入学、本人の努力と多くの方々のご支援で 2 年間の勉強を終え卒業、3 月末に美容師免許証 (国家資格) を取得しました。

ご支援いただいた皆様に

2013 年、生まれて初めて飛行機に乗り、不安と希望をもって日本にやってきました。それから 3 年がたった今、3 月 16 日に、専門学校岡山ビューティモードを無事卒業することができました。また 3 月 31 日に美容師国家試験結果が発表され、実技・筆記共に合格することができました。

日本語と美容の勉強は本当に大変でしたが、皆様からの応援を頂いて頑張れました。関係法規・衛生管理・美容保健・物理・化学・美容理論と難しい専門用語ばかりの授業で、果たしてこの先ついていけるかどうか、すごく、すごく不安でした。

この道を選んで本当によかったのかと、何度も思いました。でも、自分で



美容師免許証

選んだ道だから進むしかない、これから何が起きるとしても

頑張るしかないと思い直しました。だれにも負けたくない。人間は誰でも能力がある。ちゃんとやればできる。自分を信じるのが大切だと。私の前には道がない、進んだ後ろに道はできる。そう教えられ、いろいろなことを乗り越えられました。

つらいことも、苦しいことも、たくさんあります。でもそれを乗り越えなければ、幸せが来ない。強い気持ちで生きて行けば、神様は天国から見守ってくれるし、いい人生をプレゼントしてくれます。私の母はなくなる前に、「私がいなくてもあなたたちのことは神様からの見守りと助けがある」という言葉を残してくれました。

私の幸せは何か? いつも考えました。私だけの幸せはありません。私の家族、私の友だち、センターの子ども達、まわりのみんなの幸せが、私の幸せにつながります。カンボジアの国のために、人のために私も役に立ちたいのです。貧しい子ども達が、自分で仕事をして、生きて行けるように、私が学んだ技術を教えたいと考えています。

ここまで来られたのはたくさんの応



OBM 卒業式

援して下さる皆様のおかげです。日本に来て、何の心配もなく勉強のことだけを考えて過ごせたのは生まれて初めてのことでした。

カンボジアに帰って、一人前の美容師となり、皆様が私をサポートして下さいるように、今度は貧しい子ども達が希望をもって生きて行けるようにサポートしたいと思っています。これからも、サオピアがんばれ! と応援してください。

日本は私のもう一つのふるさと・家族です。

最後に、みなさまのご健康とお幸せを心からお祈りしています。

バン・サオピア

※詳細は HP のサオピア日記をご覧ください。

カンボジア小学校体育科教育 — 自立的普及に向けた人材育成及び体制構築のための事業 (JICA 草の根技術協力事業 パートナー型)

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治



タケオ州での最終評価

活動報告 (2016 年 1 月～ 7 月) :

ハート・オブ・ゴールド (以下、HG) はカンボジア教育・青年・スポーツ省 (以下、教育省) と協力し、新体育普及活動の最後となる第 5 地域のシェムリアップ地域 (コンポントム州、プレアビヒア州) において、地域トレーナー 6 名を選出し、これで全 5 地域から各 6 名、合計 30 名の地域トレーナーが誕生しました。2016 年 1 月以降はコンポントム州とプレアビヒア州において 3 回目のモニタリングと公開授業を行いました。

15 州の対象校での新体育の実施

状況を評価するために、ナショナル・トレーナーと協力して評価基準表を作成し、2016 年 3 月から第 1 地域 (スヴァイリエン地域) のスヴァイリエン州、タケオ州、プレイヴェン州で、ナショナル・トレーナーや州教育局担当官と共に、拠点校と教員養成校の最終評価を実施しました。5 月末には第 2 地域 (クラチエ地域) のクラチエ州、ラタナキリ州、ストウンレン州で、6 月には第 3 地域 (シアヌークビル地域) のシアヌークビル州、コッコン州、カンポット州と第 4 地域 (バタンバン地域) のバタンバン州、バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州の拠点校と教員養成校で最終評価を実施しました。

そして最終評価で評価基準を満たした対象校は、教育省認定の研究指定校プレートが授与され、これまでの努力の評価とともに、引き続き新

体育の授業の充実と他校への普及に尽力してゆくことが期待されます。

今後は、7 月上旬に最後の第 5 地域 (シェムリアップ地域) で最終評価を実施します。また、7 月下旬には岡出美則教授 (筑波大学) を招聘し、全 15 州の教育局担当官及び教員養成校の教員を対象に最終ワークショップを実施する予定です。そして 9 月末までにこれまでの 10 年間の活動を総括するとともに教育省に提言を行い、教育省が独自に新体育を普及できるよう、HG は引き続き協力していきます。



ラタナキリ州での研究指定校プレート贈呈

カンボジア中学校体育科教育 — 平成 27 年度戦略的二国間スポーツ国際貢献事業 (スポーツ・フォー・トゥモロー)

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹



バタンバン州のワークショップにて水泳の授業で安全性の確保や泳法を教える佐藤教授

2020 年のオリンピック政策の一つであるスポーツ・フォー・トゥモロー事業の一環として実施している本事業は、2016 年 12 月までに中学校体育科教育の指導要領へのカンボジア教育・青年・スポーツ省 (以下、教育省) の認定を取得することを目指して、2015 年 11 月より活動を実施しています。

2016 年 1 月には、教育省の担当官 3 名と共に、タイ教育省、2 つの

教員養成機関、4 つの中学校を調査しました。隣国でありながら、発展の状況の違いや体育科教育の学習指導要領に対する認識も異なっており、日本、カンボジア、タイの体育科教育制度を比較し、カンボジアの学習指導要領はどのようなものにしたいかを具体的に考えることができました。

2016 年 1 月からは、実際に学習指導要領のドラフトの作成も開始しており、2016 年 6 月までに、リズム運動、器械体操、陸上、サッカー、バレーボール、バスケットボール、体力測定、空手、テコンドー、クメール・ボクシング、ボカタオ (カンボジア伝統武道)、卓球、水泳、ペタンクの計 14 種目のドラフトができています。

それらのドラフトを用い、2016

年 2 月にはバタンバン州の 16 の中学校、4 月にはスヴァイリエンの 10 の中学校、5 月には再びバタンバン州とプノンペン市の 3 つの中学校の校長や教員を対象に、実践授業に加え、グループワーク等で改善点を探っていました。

今後、教育省の担当官である技術委員会のメンバーと協議を深め、カンボジアに合った、カンボジアのすべての中学校で利用される学習指導要領を作成するため、引き続き、活動を続けていきます。



プノンペン市のワークショップの閉会式

カンボジア小学校体育普及支援：PE Festival（運動会）実施支援

プロジェクト・オフィサー 井上 恭子

カンボジアでの小学校体育振興事業の成果を図るため、また「スポーツ文化の楽しさをみんなで体験すること」を目標に、新しい体育の授業を実施している拠点校において、行政と学校が主体となった運動会実施支援の3年目。過去2年に支援実施した小学校での継続実施と、新規4校での実施のため、同国教育・青年・スポーツ省体育科教育の担当行政官であるナショナルトレーナー（NT）の指導力向上のため3つの活動を行いました。

8月に行った新規4校対象のワークショップ（WS）は、岡山市から3名の専門家を派遣し、教員等に運動会のイメージを持ってもらい、実際



「ナイスキャッチ」

に自校のグラウンドの計測と用具確認、プログラム作成や実技練習、学校毎の成果発表を行うなど、多様な内容で実用性があり効果的でした。

また、9月はNTとその上長を岡山に招聘。岡山市立西大寺小学校、倉敷市立中島小学校の2校で、事前準備を含めた運動会見学と、岡山大学でマニュアル作成のためのWSを実施しました。

継続実施の3校へは、NTによるモニタリングと事前WSにより、規模を縮小しながらも学校教職員のみで準備をすすめ、競技内容にも工夫がみられ、用具の管理や出し入れは児童も担当し、また児童用の水などはPTAや他NGOからの支援による

独自予算を確保していました。新規4校については、NT、サブNT、HGスタッフ、派遣専門家3名と学生ボランティア等がそれぞれの学校に分かれ、開催1週間前から現地支援を開始しました。拠点校ではRT（地域トレーナー）が主体的に活動し、他の教員も次第に積極的に関わるようになっていきました。NTが岡山の小学校の運動会で見た「ナイスキャッチ」という競技を取り入れた学校では、道具を一から作り、より多くの児童が参加できるようにアレンジしていました。同様に応援合戦も児童がMCを行ったりパフォーマンスをしたり、また各校とも保護者を多く招待し、参加種目も設けられていたり、これまでの経験が活かされていました。

NT、サブNTは、過去2年間で実施した運動会での経験をもとに、今年度初めて、独自でWSと運動会を2州4校で実施しました。

“カンボラ”：カンボジアでのフィールド・スタディによる国際貢献人材育成

岡山県「岡山発国際貢献活動推進事業」 プロジェクト・オフィサー 井上 恭子

現地活動：12月19日～29日 バッタンバン、シェムリアップ

本事業は、グローバルな視点に加え、国際貢献の素養も併せ持った人材を育成することを目的とし、当該補助金の対象となる岡山県内の大学生に国際協力の現場での実体験の機会を提供するものです。具体的には、課題解決の参加型と、学生自らが課題を形成し活動を企画・実施する企画型の2つのプロジェクトに分けられました。

13名の大学生、院生が参加し、

参加型は、(1)運動会の運営補助（運営そのものではなく「参加者が楽しめる運動会」）と(2)浄水器設置校での手洗い指導を、企画型は、NCCCやチェイ小学校で、ペットボトルロケット実験や料理、ダンス、工作などの趣向を凝らした11の活動を行いました。約1ヶ月半の準備期間に、カンボジアの歴史や現状を学び、プロジェクト毎に準備を行うなかで、現地では道具や場所など環境が十分



NCCCでココナツダンスを教わる学生達

ではないことに戸惑いながらも、気付きの多い、「支援」についてより深く考える機会となりました。

浄水器設置で安全な水を

プロジェクト・オフィサー 大澤 一夫

2016年1月、神奈川県藤沢ロータリークラブ様からご寄付を頂き、カンボジアのクラチエ州にあるクラコー小学校に、浄水器（米国製）と水飲み場を設置しました。一昨年はシェムリアップ州とスヴァイリエン州の小学校に1基ずつ、昨年はバッタンバン州の小学校に1基、今回はHGが設置する4基目の浄水器です。クラコー小学校には水道はありますが、そのま

ま飲む水質ではなかったところを、浄水器で浄化・殺菌することによって飲用可能な水になりました。贈呈式には、藤沢ロータリークラブからの来賓2名も参列され、子ども達が水飲み場の水を飲むようになって喜んでる様子をご覧になりました。

クラコー小学校は体育の研究指定校に認定されており、3名のRT（地域トレーナー）が配属されています。



贈呈式の後で浄水器の水を味わっている来賓（藤沢ロータリークラブ）や先生方

体育の授業で喉が渴いた生徒達は、水飲み場の水を思いっきり飲むようになり、体育の授業にもますます力が入ることを期待しています

2014 年のスタディツアーの際の NCCC の子ども達への歯科治療ボランティア(「HG 通信」32 号)に引き続き、2015 年にはチェイ小学校 709 名の歯科検診を依頼され実施しました。春から参加者を募集し、9 名(久保、椋梨、寺浦、穂積、青木、神谷、山本、岡、上垣)が集まり、なんとか検診できる体制が整いました。9 名の内 6 名はアンコールワットが初めてで、観光もしたいし、マラソンにも参加する。このため他のツアーメンバーが観光している時間のうち、午前半日、午後半日をボランティアの時間に充てました。



屋外検診の様子、皆お行儀良いです

現地で教員に歯科検診の必要性を説明して欲しいと言われたのには驚きましたが、むし歯や歯周病と全身疾患の因果関係と、集団で検診する意義を説明したら、納得されました。何か質問はないかとの問いに、1 人の女性教員が「検診の必要性は理解できたが、来年も来てくれるのか?」と聞いてきました。我々の答えは“Of course Yes!”でした。Yes と言った以上、この業務は継続させる覚悟です。検診業務は、日本では絶対行わない野外での検診となりました。歯科検診は、検診する術者が記号を伝え、記録者がそれを書き写す 2 人一組の作業のため、周囲からの雑音が入らない静かな環境が必要になります。検診初体験のカンボジアの子ども達が、果たして思い通りに口を開け、静かに、行儀良く順番待ちしてくれるのか?しかも屋外で…と、いろいろ心配していましたが、杞憂に過ぎませんでした。チェイ小学校の子ども達は、日本の子ども達よりずっとお行儀良く、協力的でした。



ブラッシング指導とクメール語媒体を使った公衆衛生教育

今回の検診をどのように進めるかは日本でもかなり議論しました。その結果、別紙のような 2 枚一組のカーボン複写式検診票を作製し、一部は小学校に保管、一部は我々が持ち帰り、データを分析することになりました。



クメール語検診票の作製は椋梨先生と NCCC スタッフの磯邊さんに協力していただきました。活動は単に検診業務だけでなく、むし歯予防にとって大切なブラッシング指導と公衆衛生教育を行うことも目標としていたので、歯科衛生士の岡さんの参加は心強く、歯科検診と同時平行で各教室を回り、手作りの教育用媒体を使って、ブラッシング指導を行っていただきました。媒体は、模造紙に絵とクメール語の説明文を書いたもので、子供にも良くわかると好評でした。岡さんは日本で練習していたクメール語でのブラッシング指導を行いました。歯ブラシは 1 人に 2 本が行き渡るよう、日本から持ち込みました。カンボジアでは歯磨きをしたことがないという子もあり、ブラッシングの仕方が解らない子供がほとんどでした。

今回の検診結果を下記に示します。世界的なむし歯の評価基準に、DMFT (1 人平均むし歯数) という数値があります。D (未処置う蝕歯) と M (喪失歯) と F (う蝕が原因で処置された歯) の総和を人数で割った数、すなわち 1 人あたりのむし歯経験値です。幼稚園から小 6 までの対象者 680 人のデータからは DMFT が 7.4 となりました。これは乳歯のむし歯治療がほとんど行われ



歯ブラシ経験のない子どもへの指導

ていないのが原因です。小 6 (12 才) の DMFT は 4.0 となり、日本の小 6 が 1.0 以下なので、日本の 4 倍以上のむし歯数です。しかも日本の場合ほとんどが F の処置歯であるのに対して、チェイ小学校は手つかずのむし歯 D と M でした。全体のむし歯罹患率は 90% で、実に 10 人に 9 人がむし歯ということになります。そしてむし歯は治療されず、放置されていることを示します。これは 50 年前の高度成長期の頃の日本と似たような状況です。

カンボジアでむし歯が多い理由の一つに、学校内に駄菓子屋があり、子ども達が常に甘いものを口に入れていることがあげられます。そして公衆衛生教育がされておらず、家庭や学校などで食後の歯ブラシの習慣がないこと、上水道が日本のように自由に使えない環境面も考慮すべきことと考えます。

我々は HG デンタル班として、今後もニーズがある限りこの活動を続けて参ります。

HG デンタル班でボランティア活動をして下さる歯科関係者を募集しています。協力していただける方は HG 事務局まで連絡して下さい。今年もアンコールワットマラソン&スタディツアー (12 月 1 日～5 日あるいは 6 日) での現地活動になります。

歯ブラシなどの支援物資を提供していただいたタカラベルモント(株)、ライオン(株)、SUNSTAR、(株) ビーブランドメディコ、(株) トミヤの方々に感謝申し上げます。



校長先生と HG デンタル班 & HG スタッフ

シェムリアップ日本語教室

プロジェクト・オフィサー 大澤 一夫

◆ BBU 大学 日本語講座

昨年 10 月に BBU 大学 (Build Bright University) で新たに開講した日本語講座は、大学生や社会人を対象に日本語の基礎を教えています。京都民際日本語学校から継続して日本語教師が派遣され、3 月までは、講座の立ち上げに尽力された松野先生、4 月からはその後任の渡邊先生を迎えました。

現在は、午前 1 クラスと午後 2 クラスの、合わせて 3 クラスを開講しています。1 月からは、岡山学芸館高校に留学した経験のあるカン・ナモイさんが日本語教師として採用され、6 月からは、チェイ小学校の HG 日本語教室で学んだコル・ソティアラーさん (王立プノンペン大学日本語学科卒業) も教師として加わりました。チェイ小で教えているスライノッチさんと合わせると、日本人教師が 1 名、カンボジア人教師が 3 名の体制となり、カンボジア人教師はすべて、過去にチェイ小学校の HG 日本語教室で小学校の時から日本語を学んだ生徒です。HG が 15 年前にカンボジアに播いた日本語教育の種が芽を出し、3 名の日本語教師として育ちつつあります。



BBU で教えるナモイ先生

BBU 大学は、学生数が 4000 人とシェムリアップで最も規模が大きな大学です。観光都市シェムリアップに多くの日本人観光客がやってくるという土地柄のため、日本語に興味を持ったり過去に日本語の基礎を習ったことのある生徒も多数おり、

新しいクラスの開講を宣伝すると、問合せや応募者がたくさん集まってきました。実際には、仕事の時間や大学の授業時間との兼ね合いで受講を諦める学生も多く、1 クラスの申し込み人数は 25 名ぐらいに落ちています。

ただほとんどが勤労学生なので、

◆ チェイ小学校 HG 日本語教室

岡山学芸館高校に留学経験のあるスライノッチさんを先生に迎えて、昨年 11 月に再開したチェイ小学校の HG 日本語教室は、継続して小学校の子ども達に週 4 回、1 時間ずつ日本語を教えています。また、1 月に岡山市教育委員会の先生方を、2 月には大塚倉庫㈱の職員の方々をゲストに迎えました。子ども達の日本語はまだ初級のため十分なコミュニケーションが取れない中でも、「私の名前はレケナです。あなたのお名



BBU で教える渡邊先生

仕事のシフトが変わって日本語教室に通う時間の都合がつかなくなる人も多く、上のレベルのクラスになるにつれて生徒数が減っていきます。対策としては、同じ進捗度の複数のクラスを開講することで、自由に午前と午後とのクラスの鞍替えができるような仕組みが必要だということが判ってきました。いろいろな時間帯でクラスを開講して欲しいという要望も寄せられており、新たな先生の採用ができれば、そのような取り組みも始めていく予定です。



チェイ小学校で教えるスライノッチ先生

前はなんですか？」という簡単な自己紹介をするゲームをしたり、一緒に折り紙を折ったりする時間は、日本人と交流できる数少ないチャンスで、心に残る楽しく貴重な時間となりました。

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

プロジェクト・オフィサー 大澤 一夫

NCCC では昨年に引き続き、20 名の子ども達が元気に生活しています。今年上半期に NCCC を訪問された支援者の方々をご紹介します。

1 月は岡山学芸館高校の Super Global High School チーム、そして岡山市教育委員会の 5 名の先生。

岡山市の先生方は、岡山の小学校とスカイプで繋いで日本の小学生と交流したり、うらじゃ踊りを一緒に踊ったりと、子ども達は大喜びでし

た。2 月に訪問された一宮中央ロータリークラブ様には、毎週子ども達が練習しているアプサラダンスを披露しました。

18 才のロイ・サレーは、お料理が好きで、休日はよく NCCC で料理の手伝いをしていますが、今年 8 月の中学卒業を前にして、高校に進学するのではなく、コックになるための料理専門学校に行く決断をしました。無料の料理学校なので競争率は



子ども達の食事風景

5 倍と高いのですが、筆記試験を通過し、面接試験へとたどり着きました。この HG 通信が発行される頃には入学試験の結果が出ているはず。コックを目指すサレーの将来を応援したいと思います。

プレミアム・チャリティ・ディナー

2月19日（金）午後6時30分より、ホテルオークラ東京オーチャードルームにて、駐日カンボジア大使と100名を超えるお客様を迎え開催されました。16の商品のご提供があったライブオークションでは、OFUKUさんと司会の深山さん、有森代表の愉快的掛け合いが会場を盛り上げました。

2006年から始まったチャリティ・ディナーは、今回で10周年を迎えました。毎年、多くのオークション商品をご提供いただき、また、多彩なゲストを招いての華やかな会でした。



実行委員長であるアミジョンの野嶋さんをはじめ、The 90 PLUS WINE CLUBと（株）RIGHTS.のスタッフ、東京の支援者の方が中心となり、準備を含めすべてボランティアとして運営をされ、毎年ハート・オブ・ゴールドに多額の寄付をしていただきました。

また新たな形で皆様とお会いできることを心待ちにしています。10年間、本当にありがとうございました。

第36回篠山ABCマラソン大会

3月6日、天気予報は昼前から雨となっていたが、大会開催中は雨が降らず助かりました。

しかし、スタート時の気温は大会史上最高の18.2℃で、参加ランナー（8,600人余）は例年寒さ対策をしてきましたが、今回は戸惑っているようでした。給水を呼びかけましたが、完走率は81.1%となりました。

尚、本年も多くのランナーの方々にグッズ販売並びに募金にご協力頂きありがとうございました。

西日本会員交流会



3月20日、淀川国際ハーフマラソンの後、大阪駅前の「老房」にて開催しました。当日は29名の会員が参加。代表からHG活動報告、留学生サオピアの挨拶、高石ともや理事による乾杯から懇親会に入り、新規参加者の自己紹介等、会員同士の交流を深める和やかな会になりました。

東日本会員交流会

4月17日かすみがうらマラソン終了後、懐かしい方、新しい方も参加され、26人が、カンボジアランナー2人と通訳のナモイさんを迎え、交流しました。

第6回淀川国際ハーフマラソン



3月20日、時々晴れ間の曇り空で、風も強く肌寒い大阪の淀川河川公園にて「3.11 子ども animo プロジェクト学校を助けよう」の支援レースとして開催されました。

3km ファミリー、10km、ハーフに、6,000人余のランナーが参加して楽しい雰囲気で行われました。

尚、本年も多くのランナーの方々にグッズ販売並びに募金にご協力頂きありがとうございました。

第32回みしま西山連峰登山マラソン



5月22日、新潟県長岡市三島地域にて、快晴のもと、800人を超えるランナーがゴールを目指しました。この大会は、2015年からチャリティ・マラソンとして、ハート・オブ・ゴールド長岡クラブが協力し、大会の収益の一部をハート・オブ・ゴールドに寄付していただくことになりました。大会前には中学生がコースの清掃活動を行うなど、地域のボランティアさん達や長岡市三島支所の職員の方々が作り上げた温かい大会です。

第26回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン

インターン 米山 遥香



ゴール後に代表とHGブースにて

4月17日に開催、アンコールワット国際ハーフマラソンで優秀な成績を収めたパン・ソピアックさん（24歳）とチャン・サマイさん（義足ランナー・46歳）

が招待され、ハート・オブ・ゴールド（以下、HG）を通じて岡山学芸館高校に留学し、現在HG日本語教室で働く、カン・ナモイさんが通訳として同行しました。

2人とも10マイルの部に参加し、パン・ソピアックさんは余裕の表情で先にゴール、チャン・サマイさんは途中横腹が痛くなりながらも最後まで諦めずに走り切りました。この経験を活かし、カンボジアでもさらに活躍する選手となって欲しいと思います。



第15回 Arimori Cup マラソン大会

5月29日、北海道むかわ町穂別地区で開催、有森代表が今年もゲスト参加しました。道内各地から過去最多の389人が参加し、1歳児（親子の部）

から89歳までの参加者が「くじけず、あきらめず、がんばる」の大会テーマのもと、全員完走。中学生による子ども実行委員が運営に当たる全国でも珍しい手作りの大会です。

皆様には大変お世話になっております。福島クラブ所属のにし(ねもと)と申します！

私がHGを知ったのは、「アンコールワット遺跡の中を有森さんと一緒に走ろう！」というタイトルの飛行機雑誌の記事を目にしたことがきっかけでした。その年の参加は叶いませんでしたが、アンコールワット、有森さん、マラソン、この3つのキーワードが強烈に頭に残り、その後一年越しで、2009年のスタディツアーに参加することができました。

ツアーは、“ハード・オブ・コールド”なスケジュールでしたが、スポーツを通じた支援という貴重な経験のオンパレードでした。



まず、キラキラしたまっすぐな瞳でぶつかってくる子ども達。そして、ツアーで出会う誰もが気さくであたたかい！想像を超えたものになりました。その後、HGでの繋がりは、HGの外でも多くの場面で

不思議と繋がり、昨年は、職場関係の皆と一緒にスタディツアーに参加することもできました。ライフワークとして、仕事の中でも理解してくださっている人が多くいるということは、とても心強いです。

ちなみに、福島クラブ所属ではありますが、福島が故郷ということではなく、HGでのご縁がきっかけで、クラブ発足と同時に所属を変更しました。

現在は、色々な場面でお声をかけていただく機会も増え、「できることを・できる人が・できる限り」と、3.11子どもanimoプロジェクトとして石巻での活動や、友人が行っている子供向けワークショップでの被災地支援、衣類の回収や必要とされる物資の回収などを行っております。「HGでの活動がなければ出会えなかった」「HGで出会った人々から教えられた」という出来事が、私の原動力です。

自分にもできる活動があったら、待つだけでなく行動！時にチャレンジ！と、参画させていただいておりますが、身近な出来事から”長く続けられること”として、今後も行っていきます。

これからも色々な方のお話も伺いたく、ご一緒できる機会を楽しみにしておりますので今後ともよろしくお願い致します。

熊本地震被災者への支援活動中！

4月14日・15日・16日に熊本で大きな地震が頻発し大きな被害をもたらしました。HGは、日本警察消防スポーツ連盟(JPFSF)と協働して活動を始めました。JPFSFは、倒壊の危険がある家から『大切なもの』を取り出して欲しいとの要望を受け活動継続中。(6月10現在)

HGは、JPFSFの活動に必要な機材を調達。要望に応じて、衣類を提供。その後、水着がないために水泳の授業を見学している益城町立安西小学校と益城中央小学校の2校の生徒に官公学生服(袴)とHG飯田



小学校に水着を贈呈

クラブからの支援を受けて、水着を100枚ずつ贈呈しました。



倒壊した家から『大切なもの』を取り出しているJPFSFのメンバー

主な活動報告 (2016 年前半)

- 1/6 岡山学芸館カンボジア研修受入(シェムリアップ)
 - 1/12-3/23 筑波大学より研修学生受入(プノンペン)
 - 1/20 幼少交流(曾根小とNCCC)
 - 1/25-29 岡山市教委カンボジア研修受入(シェムリアップ・プノンペン)
 - 2/3 岡山せとうちライオンズクラブ例会
 - 2/19 プレミアム・チャリティ・ディナー(東京)
 - 2/20 岡山学芸館SGH報告会
 - 2/21 カンボラ報告会
 - 2/27 野蒜小学校閉校式(宮城)
 - 3/6 篠山ABCマラソン(兵庫)
 - 3/10 神戸ライオンズクラブ女性フォーラム代表講演(兵庫)
 - 3/20 淀川国際ハーフマラソン(大阪)
 - HG西日本会員交流会(大阪)
 - 3/23 カンボジア教育省年次総会にて報告(プノンペン)
 - 4/17 かすみがうらマラソン(茨城・土浦)
 - HG東日本会員交流会(東京)
 - 4/24 百間川ふれあいフェスタ(岡山)
 - 5/8 アニモ・チャリティバザー(岡山)
 - 5/22 みしま西山連峰登山マラソン(新潟・長岡)
 - 5/22 サオピア講演(カモンR)(岡山)
 - 5/29 Arimori Cupマラソン大会(北海道・穂別)
 - 6/22 アニモの会(岡山)
 - 6/23 HG総会・理事会・会員交流会(岡山)
- [出前授業：野谷小、平福小、第三藤田小、朝日塾、政田小]

主な活動予定 (2016 年後半) 変更あり

- 7/20-22 小学校体育科教育支援事業最終協議会(プノンペン)
- 8月 岡山市教員派遣(CLAIR事業、岡山)
- 9/3 HG長岡クラブ総会(新潟)
- 9/6 HG福島クラブ総会・交流会(福島)
- 9/8 倉敷平成ライオンズクラブ例会(岡山)
- 9/11 吹田中の島チャリティラン(大阪)(ラストラン)
- 9/22 親子チャリティマラソンinおもちゃ王国(岡山)
- 11/1-3 中学校体育科教育支援事業最終協議会(プノンペン)
- 11/13 おかやまマラソン(岡山)
- 11/27 富士山マラソン(山梨)
- 12/1-6 HGスタディツアー(シェムリアップ)
- 12/2 アンコールウォーキング(シェムリアップ)
- 12/4 アンコールワット国際ハーフマラソン(シェムリアップ)
- 12/18 岡山南ロータリー代表講演(岡山)
- 12/21 中学校体育指導要領認定セレモニー(プノンペン)
- 12/23 山陽女子ロードレース(岡山)

事務局からのお知らせ・お願い

●HG会員募集！ 活動に賛同してくださる会員さんを募集しています。ぜひお知り合いの方をお誘いください。

●ボランティア募集！

本部事務局では、ボランティアを随時募集しています。国際協力に関心がある方、簡単な事務作業から、イベントの手伝いなど、各自のご都合に合わせてご参加いただけます。

●新スタッフ紹介

シェムリアップ事務所にカン・ナモイさんが日本語教師として加わりました。

米山遙香さんも昨年に引き続きインターンとして派遣されています（HPのインターンブログをご覧ください）。

●未使用の切手・石鹸・歯ブラシ・タオル・鉛筆、書き損じ葉書を集めています。カンボジアでの活動に有効に使わせていただきます。本部事務局までお送りください。

※HGは認定NPO法人ですので、寄付金は、個人・法人を問わずすべて寄付控除が受けられます。相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。

第18回総会開催・交流会

6月23日、午後6時より岡山NPOセンターきらめきプラザにて2015年度総会が開催されました。

2015年度事業報告・決算報告、2016年度事業計画案・予算案が承認可決されました。スタッフ一同、本年度も充実した活動になるよう取り組んでまいります。

さらなる皆様のご理解、ご参加、ご支援をよろしくお願い申し上げます。総会後は、例年通り同じ場所にて交流会に移り、活発な集まりとなりました。